

現況石垣への長塀復旧について

資料 4-1

1. 検討概要

本検討では、熊本地震後の長塀石垣の現況調査を実施のうえ、石垣の変状状況を把握し、現況の安定性について検討を加えた。

2. 長塀石垣の現況調査結果について

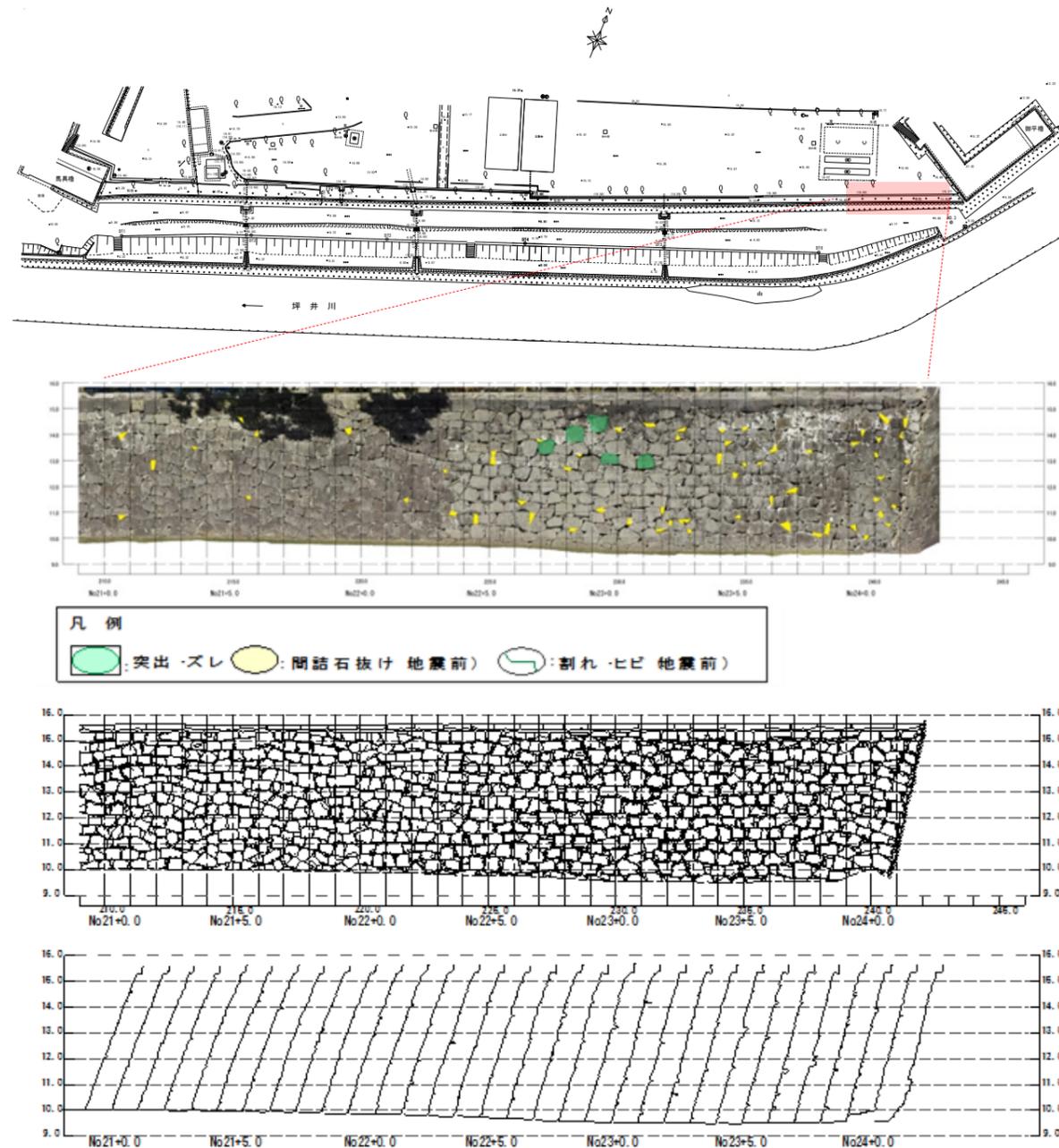
熊本地震を経た長塀石垣の現況図の抜粋を図1に示す。なお、長塀石垣全体の変状状況については、別添資料のとおりである。

調査の結果、一部の石材の突出や間詰め石の抜け落ちがみられるものの、突出している石材は数石程度、かつ小規模なものであるとともに、抜け落ちている間詰め石についても、熊本地震により落下したと判断されるものは、ほとんど見当たらない状況であった。また、三次元レーザー計測及び写真測量から作成した石垣の縦断面図からも全体的な孕み出しも認められない状況である。

3. まとめ

長塀石垣の現況調査結果及び安定性について以下に示す。

- ・変状状況の調査結果より、軽微な変状は認められるものの、石垣の解体修理を必要とするような極端な変状を呈している部分は確認されず、現況の石垣は安定を保っていると推察される
- 上記を踏まえ、石垣は解体修理をせず、上部の建造物を補強して復旧する方針とした。



【図1 長塀石垣の変状状況（抜粋）】